

令和 4 年 9 月 7 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01861

研究課題名（和文）預貸率低下に対応する地方銀行経営

研究課題名（英文）The usiness policy of regional banks against the declining loan-deposit ratio

研究代表者

近廣 昌志（CHIKAHIRO, Masashi）

愛媛大学・法文学部・准教授

研究者番号：60644466

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：地方銀行の経営課題、預貸率の低下の観点から銀行経営の最適化について研究を行った。問題に対する主たる要因は、いまだ営業の実態が預金獲得を主軸とする旧態依然の営業方針と、貨幣発行に関わる理論的解釈が個別銀行では正しく判断できていないことが改めて確認できた。優良で適切な貸出先が見つけれないことが要因ではない。

本研究では、日本の預貸率の変動を、スカンジナビア諸国との対比によって行い、マクロベースでの財政支出と銀行機能の関わりが有意な要因であることが示された。日本の銀行は国債消化への関りが大きく、地方経済の衰退というよりは財政赤字への協力によって預貸率の低下が引き起こされることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地方銀行の経営環境の悪化に対応するための理論分析を行った研究である。銀行システムがおかれている環境、特にマクロ環境の変化の要因分析に注力した。

具体的には預貸率低下のマクロ環境の対比を、スカンジナビア諸国との国際比較により、日本の環境悪化の要因が、政府債務の増大に伴う銀行システムによる政府債務の消化ないし引き受けに要因が認められることを明らかにした。

これは社会の高齢化や地方産業の衰退に要因を求める一般論とは異なり、貨幣供給能力を有する地方銀行を含む銀行システムが政府債務を引き受けることで預貸率が事後的に低下する現象のメカニズムを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I studied issues of regional banks in Japan and the optimization of bank management from the perspective of declining loan-deposit ratio. The mainly factors contributing to the problem are still the old business policy of acquiring deposits, and the fact that the theoretical interpretation of money issuance or creation has not been correctly determined by the banks.

In this study, the variation of the loan-deposit ratio in Japan is contrasted with that in Scandinavian countries, and it is shown that the relationship between fiscal expenditure or spending and banking function on a macro basis is a significant factor. Japanese banks are heavily involved in JGB, and it is clear that the decline in the loan-deposit ratio is caused by cooperation with the budget deficit rather than by the decline in the local economy.

研究分野：貨幣供給理論、銀行経営

キーワード：預貸率低下 貨幣制度 国家貨幣

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の銀行セクターの経営環境の悪化が著しく、特に、第二地方銀行や信用金庫および信用組合などの預金取扱金融機関である共同組織を含む地方銀行の預貸率低下が著しい。この現象は、1990年以降趨勢的にみられることから、日本の経済的問題として大きく取り上げられている。一般的には不良債権問題と社会の高齢化が指摘されているが、同じことが指摘されてきたスカンジナビア諸国の預貸率は、逆に上昇していることから、要因分析が正しくないことがうかがわれる。そこで、研究実施者が継続的に行ってきた預貸率変動に関わる理論研究を、国際比較を通じて実証する必要性が本研究の動機であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の1. 研究開始当初の背景で述べた、日本の預貸率低下の要因が、不良債権問題と社会の高齢化および産業の低迷にあるのではなく、銀行システムによる政府債務の消化ないし引き受けに要因が認められるかを検証することである。特にスカンジナビア諸国を中心とする経済圏では、銀行がクロスボーダーに支店網を構築しており複雑であることから、スウェーデン等の主要銀行の国外勘定の処理を行うことで、仮説理論の精緻化を目指すものである。

3. 研究の方法

国際比較研究に伴い、日本の銀行勘定に関わるデータとスカンジナビア諸国の銀行勘定に関わるデータを収集し、預貸率の変動に対するマクロモデルの構築と検証を行った。また、このマクロモデル仮説の構築には、エストニアの中央銀行である Bank of Estonia への訪問ヒアリングによって、当該銀行エコノミストから貴重なデータを入手させていただき、またスカンジナビア諸国に特有の構造的特徴について示唆を得たことで、より現実を反映した内容にすることが可能になった。また、政府債務の銀行システムによる消化ないし引き受けの問題は、MMT と呼ばれ、政治的にも取り上げられるようになった理論との関りが重要であるため、MMT の理論構造と現行銀行システムとの比較を行う必要性から、内省的貨幣協理論のフレームワークを用いて理論研究を進めた。更に、中央銀行のデジタル貨幣 (CBDC) の発行問題が注目され、これは特に地方銀行の機能を大幅に制限する可能性が考えられることから、国際決済銀行から公開されているワーキングペーパーをもとに翻訳し、CBDC の理論検討に活用した。

4. 研究成果

本研究が掲げた仮説はおおむね有意であることが明らかになった。預貸率の算出は預金金融機関のバランスシート上の貸借から求められるが、本研究の特徴は、仮説の設定が内生的貨幣供給理論に立脚している点にある、具体的には、受け入れた預金量に対して貸出残高の比率を算出する方法は採用せず、預金そのものが政府債務である国債を銀行システムが消化することで増加するアプローチを採用している。この理由は、本来預貸率は貸出の増減によっては大きく変動しないという内生的貨幣供給理論から導出されるもので、銀行の貸出は同額の預金残高が設定されるからであり、預貸率に関わる一般論の理論的欠陥を回避するものである。

本研究によって検証される内容は、政府債務に対する銀行による消化ないし引き受けの割合が増加すれば、預貸率を低下させるという仮説に整合性が認められることであり、おおむねこれが明らかになった。したがって、生産労働人口が増加しない現状において、また、地方経済の付加価値創出が低下し、国債の経済格差が拡大することで、マクロ的な財政出動が必要とされ、

そのために国家による需要創出のための政府債務残高が増加するが、これは開放経済ないしは経済のグローバル化が一層進む環境にあって、経済のグローバルな観点から見た場合の不均衡によって政府債務残高の増大が要請されるという悪循環が背景に認められる。本研究では、大きな要因として、金融と財・サービスの取引はグローバルに拡大する一方、生産労働人口の移動が追いつかないというマクロ不均衡の解消が預貸率低下を阻止するために必要最大の要因であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 近廣昌志 | 4. 巻 41 |
| 2. 論文標題 信用論から検討するMMTの是非 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 愛媛経済論集 | 6. 最初と最後の頁 45,56 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 近廣昌志 |
| 2. 発表標題 預貸率低下にみる地方銀行の国際化 |
| 3. 学会等名 和歌山大学経済学部「金融グローバリゼーション研究ユニット」令和2年度第1回研究会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 近廣昌志 |
| 2. 発表標題 地方銀行の収益構造の変化 |
| 3. 学会等名 愛知教育大学「国際ビジネス研究会」 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 CHIKAHIRO Masashi |
| 2. 発表標題 Relationship between economic glocalization and the deposit-loan ratio of regional banks in Japan |
| 3. 学会等名 RSAI (Regional Science Association International) 13th World Congress of the RSAI (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|